

論点

中部太平洋での核実験による被害の全容解明と補償を

野口 邦和 (常任世話人・元日本大学准教授 (放射線防護学))

法的根拠のない占領下と信託統治下の核実験

アメリカは、占領下にあって1946年に2回の核実験を実施しました。施政権者といえアメリカが信託統治領のマーシャル諸島で核実験を実施できる国際法上の根拠はまったくなく、国連憲章違反の乱暴きわまりない行為です。信託統治の基本目的は国連憲章で規定されており、非自治地域の独立に向けて「国際的平和及び安全を増進する」住民の政治的、経済的、社会的及び教育的進歩的、物ともありません。

局地的フォールアウトが増える雨季の核実験

マーシャル諸島の核実験は、キャッスル作戦(54年の6回の実用水爆実験)以前は4〜5月に行うことが多かったのですが、キャッスル作戦後は5〜7月に行うようになりました。なせでしょうか。アメリカ気象局のローバート・リストによりまとめられたDOE(エネルギー省)のNYO4645レポートは、キャッスル作戦時の6回の核実験フォールアウトを概算(イルムハ

工採り紙のようなもの)・ステーションによる世界的ネットワークを構築して調査したものでした。NYO4645の結論は、太平洋上の居住地域の核実験フォールアウトは雨季(ほぼ5〜10月)に行くと増え、乾季(ほぼ12〜4月)に行くと減るといっています。大気圏内核実験により大気中に放出された核分裂生成物が降雨地域に大量に降下・沈着することは、広島・長崎の「黒い雨」地域でも知られている現象です。太平洋上の居住地域の核実験フォールアウトが増えることは、その分

北米大陸での核実験フォールアウトが減ることを意味します。アメリカはNYO4645レポートの結論を受けて、キャッスル作戦後、太平洋上の居住地域で核実験フォールアウトが増える雨季に核実験を行い続けました。

ロンゲラップ島民より優先されたアメリカ人の避難

1954年3月1日のビキニ環礁のフラボ実験当時、同環礁から約200キロメートル東に位置するロンゲラップ環礁(ロンゲラップ島)に67人の島民(妊婦3人を含む)がいました。ロンゲラップ島の西、ビキニ環礁から150キロメートル東に位置するアインクゲナ環礁(シオ島)には19人(妊婦1人を含む)のロンゲラップ島民がいました。実験の数時間後、白い灰(核実験で粉砕された珊瑚礁の微粉末)に核分裂生成物などが付着したものが降ってきたため、島民は実験の50〜58時間後に救出され、3月4日までに86人全員が270キロメートル南に位置するアメリカ軍クワセレン基地に收容されました。

クワセレン基地に收容されたロンゲラップ島民はマチュロ環礁にシフト島に移され、アメリカの「安全宣言」によつて1957年6月、ようやく250人の島民はロンゲラップ環礁に帰島しました。しかし帰島後、流産や死産、異常児の出産などが相次いだため、85年5月、325人の島民は先祖伝来の環礁を棄て、自らの意思で無人のクワセレン環礁(シオ島)に移りました。その後、99年にロンゲラップ島中央部の除染(地表を20センチメートル剥がした)が行われましたが、未だに島民は帰島していません。汚染のひどい同環礁の北部の島々はもろろんのこと汚染の低い同環礁の南部の島々を含めて、ロンゲラップ島中央部以外は何も手がつけられていないからです。

日本政府の政治の重大な怠慢

核兵器開発の中生じる被害は必ず隣国に、放置される。その結果、被害の範囲・程度が不明のままとなります。公表すれば、核兵器開発の障害になるおそれがあるからです。被害の隠蔽と放置が行われてい

時間後にそれぞれ救出されました。被曝線量はロンゲラップ島民より低いと予想されたのですが、アメリカ軍人の救出は実に迅速でした。ロンゲラップ島民よりアメリカ人を優先した救出であったことは明らかです。

クワセレン基地に收容されたロンゲラップ島民はマチュロ環礁にシフト島に移され、アメリカの「安全宣言」によつて1957年6月、ようやく250人の島民はロンゲラップ環礁に帰島しました。しかし帰島後、流産や死産、異常児の出産などが相次いだため、85年5月、325人の島民は先祖伝来の環礁を棄て、自らの意思で無人のクワセレン環礁(シオ島)に移りました。その後、99年にロンゲラップ島中央部の除染(地表を20センチメートル剥がした)が行われましたが、未だに島民は帰島していません。汚染のひどい同環礁の北部の島々はもろろんのこと汚染の低い同環礁の南部の島々を含めて、ロンゲラップ島中央部以外は何も手がつけられていないからです。

日本政府の政治の重大な怠慢

核兵器開発の中生じる被害は必ず隣国に、放置される。その結果、被害の範囲・程度が不明のままとなります。公表すれば、核兵器開発の障害になるおそれがあるからです。被害の隠蔽と放置が行われてい

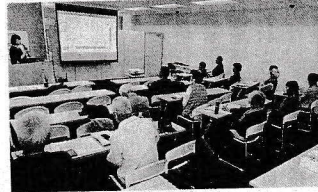
夾竹桃

坂本龍一さんが亡くなった2年が経つ。2023年は1月11日に高橋幸宏さん、3月28日に坂本龍一さんと二人のYMOが亡くなった悲しい年だ。高校生の時にYMOのブームを経験した私は、クラスの仲間とYMOのコピーバンドを組んだ。最先端だったYMOをリアルタイムでコピーした限り、被害に対する補償と救済がまともに行われるはずはありません。この点は54年のビキニ水爆実験で被災した漁船員や、58年7月14日のビキニ環礁で行った爆発威力9.3メガトンのボアラ実験の局地的フォールアウトに遭遇した海上保安庁の測量船「択洋」と巡視船「さつまい」の乗組員に関する、第四の被曝の場合も同様です。本来なら国民の安全を守るべき日本政府が、加害国のアメリカ政府の核兵器開発に依存する安全保障政策を採っているために、アメリカ政府の圧力のもと「政治決着」し、被害の解明と日本の漁船員の被災者救済の責任を放棄し、放置された。その結果、被害の範囲・程度が不明のままとなり、60年の日米安保条約改定を目前に控えた58・59年、日米安保体制の堅持を優先させた日本政府とアメリカ政府が協力して、「択洋」と

列島各地の動き

非核の東京、悪政ストップ

東京の会は3月15日、第37回総会を開催しました。総会では、被爆80年のことを、ノーベル平和賞を日本に、非核の東京・非核の日本実現と悪政ストップの今後の二年間の活動方針と世話人・常任世話人を確認しました。総会に先立って、ノーベル平和賞受賞式に参加した東友会の家島昌志代表理事が特別報告し、浜野子同志社名誉教授が記念講演を行いました。



兵庫の会は3月30日、第39回総会を開催し20人が参加しました。非核二神戸方式で50年間入港できなかつた米艦艇が3月24日に神戸港に入港した直後の総会であり、神戸市長に対して、「非核証明書」を提出しない米艦艇の入港を認めないことに抗議するともに、神戸市民の宝である「非核神戸方式」の厳守を求める「特別決議」を採択しました。総会では、元毎日新聞記者でフリージャーナリストの小山美砂さんが記念講演を行いました。

非核「神戸方式」厳守せよ

兵庫の会

時間後にそれぞれ救出されました。被曝線量はロンゲラップ島民より低いと予想されたのですが、アメリカ軍人の救出は実に迅速でした。ロンゲラップ島民よりアメリカ人を優先した救出であったことは明らかです。

「択洋」と巡視船「さつまい」の乗組員に関する、第四の被曝の場合も同様です。

おわりに

85年8月、西ドイツのリヒャルト・フォン・ウアイツェッカー大統領は、「過去を去ることを閉ざさず、結核の悪行に目を閉ざし、再び同じ悪行を繰り返してはなりません」という有名な演説を行いました。過去に行つた負の遺産に誠実に向き合つていくことを閉ざさず、(国)は、再び同じ過ちを繰り返す危険があることを警告したものです。太平洋上で行われた核実験による被害を振り返る時、私たちは、被害を引き起こした加害国政府が過去の負の遺産に誠実に向き合つていくことを閉ざさず、被災者に対する補償と必要な救済措置を採るよう要求します。また、唯一の戦争被爆